

パナソニック環境ビジョン2050実現に向けた取り組み

Initiatives to Achieve Panasonic Environment Vision 2050

山内 政典*
Masanori Yamauchi

当社が目指す姿を示す「パナソニック環境ビジョン2050」を2017年に策定・発信した。そのなかでは、「より良い暮らし」と「持続可能な地球環境」の両立に向けて、クリーンなエネルギーでより良く快適にくらせる社会を目指し、使うエネルギーを削減すると同時に、それを超えるクリーンなエネルギーの創出・活用を進めることを示している。ビジョン実現に向けた具体的な取り組み事例を紹介する。

Panasonic formulated and announced “Panasonic Environment Vision 2050” in 2017 to determine our own initiatives. The vision aims to achieve “a better life” and “a sustainable global environment”, Panasonic will work towards the creation and more efficient utilization of energy which exceeds the amount of energy used, aiming for a society with clean energy and a more comfortable lifestyle. Activities and some cases for achieving the vision are introduced here.

1. パナソニック環境ビジョン2050

環境・エネルギーを中心とした社会課題に対する関心がグローバルで高まるなか、世界の国が一致して温暖化対策に取り組むことを定めたパリ協定や、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）に対する高い注目は、環境問題がグローバルで深刻化していることを示唆するものである。

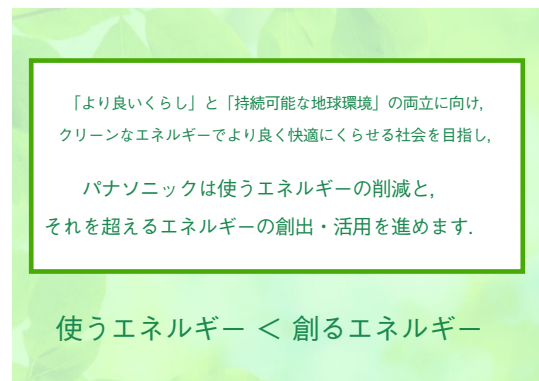
当社は1918年の創業以来、世界中の人々の暮らしの向上と社会の発展に貢献するという企業理念に基づき、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組んできた。気候変動やエネルギー問題、資源枯渇などが深刻な状況になっているなか、当社は今後目指す姿として、「パナソニック環境ビジョン2050（以下、環境ビジョン2050）」を2017年に策定・発信した。環境ビジョン2050では、「より良い暮らし」と「持続可能な地球環境」の両立を実現し、キーメッセージをエネルギーに置いて、クリーンなエネルギーでより良く快適にくらせる社会を目指し、使うエネルギーを削減すると同時に、それを超えるクリーンなエネルギーの創出・活用を進めることを示している。環境ビジョン2050およびキーメッセージを第1図に示す。

これを達成するためには、モノづくりプロセスの革新や製品の省エネ性能向上により「使うエネルギー」を削減すること、さらに、創・蓄エネルギー事業の拡大やクリーンなエネルギーの活用機会の増大により「創るエネルギー」を伸ばしていくことが必要である。

環境ビジョン2050の実現に向けては、キーメッセージの「エネルギー」だけでなく、「資源」をマテリアリティと捉えた、資源の有効活用の促進や、工場から排出されるCO₂

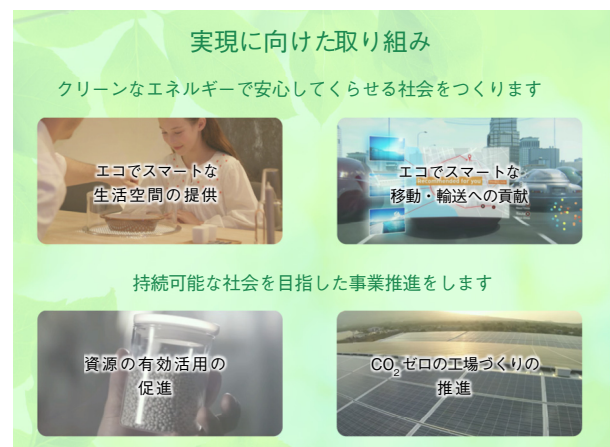
を実質ゼロにするCO₂ゼロ工場の創出など、持続可能な社会を目指した事業推進をすることにも取り組んでいる。

第2図にこれを示す。



第1図 パナソニック環境ビジョン2050

Fig. 1 Panasonic environment vision 2050



第2図 環境ビジョン実現に向けた取り組み

Fig. 2 Initiatives to achieve the environmental vision

* 品質・環境本部
Quality & Environment Div.

2. 環境ビジョン2050実現に向けた取り組み事例

2.1 クリーンなエネルギーで安心してらせる社会づくり

クリーンなエネルギーを活用する取り組みとして、滋賀県草津市にあるアプライアンス社草津拠点構内に水素ステーション「H2 Kusatsu Farm」を建設した（第3図）。構内物流のCO2ゼロ化に向け、再生可能エネルギーを利用した水電解で製造した水素を燃料電池フォークリフトに供給する実証を行っている。また、東京2020の選手村跡地に誕生する街「HARUMI FLAG」では、街区ごとに設置される純水



第3図 水素ステーション「H₂ Kusatsu Farm」

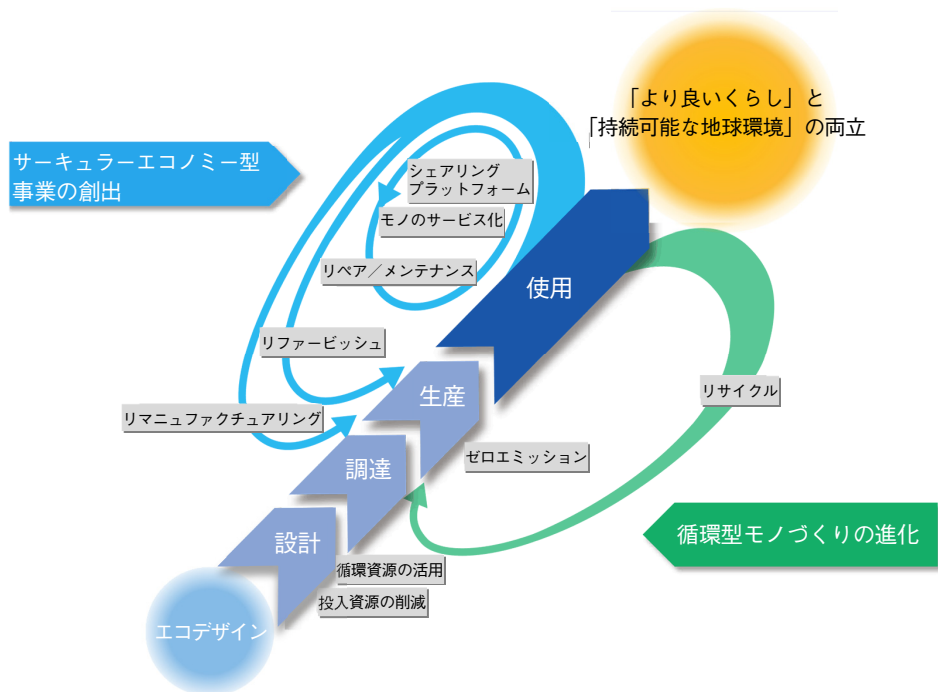
Fig. 3 Hydrogen station “H₂ Kusatsu Farm”

素型燃料電池が外構照明や空調機などの共用施設に電力を供給する。さらに、都市ガスを改質して作り出した水素を利用して発電する家庭用燃料電池をすべての分譲住宅に導入する予定で、これにより年間約4000トンのCO₂を削減する。

2.2 持続可能な社会を目指した事業推進

持続可能な社会を目指した当社の取り組みとして、CO₂ゼロの工場づくりがある。照明のLED化、FEMS（Factory Energy Management System）などの先進的省エネ技術や革新的モノづくりにより使うエネルギーを削減し、再生可能エネルギーの活用で創るエネルギー拡大することでCO₂を排出しないモノづくりを推進している。この取り組みはグローバルに展開を行っており、2019年度にはコスタリカの乾電池工場であるパナソニックセントロアメリカーナが政府と官民連携プロジェクトを発足した。配電公社から400枚のソーラーパネルの提供や100%再生可能由来電力の供給を受け、CO₂ゼロモデル工場を実現するとともにコスタリカ政府初の「再エネ100%工場」の認証を取得した。

また資源については、資源消費に依存せず、継続的な経済成長を目指すサーキュラーエコノミーの取り組みがある。実現に向けた当社の取り組みには、サーキュラーエコノミー型事業の創出と、循環型モノづくりの進化という2つの側面があり、この取り組みコンセプトを図示化した（第4図）。



第4図 サーキュラーエコノミーの取り組みコンセプト

Fig. 4 Concept of activities for a circular economy

この図に示すようにサーキュラーエコノミーの取り組みは製品使用を含む事業活動全体にわたり、設計思想から開発、生産プロセスまでその活動の範囲は広い。最近では植物由来のセルロースファイバーを混合した成形材料の開発が材料ソリューションとして注目されている。55%の高濃度で配合した成形材料を活用することにより石油由来のプラスチック使用量の削減が期待できる。材料ソリューションは社会を大きく変える可能性を秘めており今後も発展的な開発を継続していく。またサーキュラーエコノミーの考え方をベースとした具体的な共創取り組みとして、工場排出物をクリエイティブなデザインにより全く別のプロダクトとして新たな価値を創出する取り組みを進めている。アイロン、炊飯器、システムキッチンの製造過程で生じた工場排出物から、パートナーと共創でそれぞれブックエンド、照明器具、テーブルを製作した。今後も新たな価値創造にチャレンジしていく。

3. 今後の展望

本稿では、環境ビジョン2050実現に向けた取り組み事例を紹介した。環境ビジョン2050の実現のためには、今後一層の技術開発や、知見・ノウハウの共有を社内に留（とど）まることなく社外に広げ共創価値を創出していくことが重要になってくる。当社の技術ビジョンにおいて、持続可能な社会の実現に向け、エネルギー領域に注力し、エネルギーシステム、エネルギーデバイスに関する技術開発を進める方向性が示されている。

また、モノづくりビジョンでは、「Circular」のキーワードのもと、循環型の経済、地域社会、環境の実現を目指す方向性が示されている。

これらは環境ビジョン2050と親和性が高いものであり、両ビジョンと連動させながら組織横断取り組みによって社内の連携を強め、環境ビジョン2050の実現につなげていく。